

平成 25 年度 国立公園等民間活用特定自然環境保全活動（グリーンワーカー）事業  
「知床国立公園における指定植物見直しに関する調査業務」報告書

平成 26 年 1 月

釧路自然環境事務所

(有) ククマシステムデザイン

## 目次

1. 目的	1
2. 調査計画	2
3. 現地調査の実施	3
4. 現地調査の結果とりまとめ	8
5. 指定植物への追加候補種及び削除候補種リストの修正	9
6. 指定植物に追加を検討したほうが良いと考えられる種	15
7. 参考	16
8. 引用文献	18

## 1. 目的

知床国立公園の指定植物については、指定後見直しが行われていないことから、分布に誤りがある種や新たに追加すべき種が存在している。知床国立公園においては、エゾシカの個体数の急激な増加に伴う採食圧、登山利用による植生の踏み荒らし、外来種の分布拡大等が植生に影響を与えている点が指摘されており、これらの状況を踏まえ適正な植物の保護管理を実施するために指定植物の見直しが必要である。

指定植物の見直しのためには、現地における分布状況やエゾシカによる採食圧等の確認のための調査が必要である。

そこで本業務では、指定植物の見直しのための現地調査を実施することを目的とする。

## 2. 調査計画

「平成 24 年度 知床国立公園における指定植物見直しに関する調査業務報告書」において、指定植物への追加候補種及び削除候補種のうち、今後も継続して調査を実施すべき種が 90 種リストアップされている。この 90 種について、必要な現地調査計画を立案した。今回の現地調査は、指定植物選定理由の内 (1) 分布の特殊性を有する種※1 と (2) 希少種※2 についてのみ検討することとし、候補種の分布と個体数に限って指定するに妥当であるか調査を行った。したがって他の選定理由についてはここでは考慮していない。

### ※1

#### (1) 分布の特殊性を有する種

固有種（分布の範囲が数地点に限定されている植物） 隔離種

順固有種（分布の範囲が地域的に限定されている種）

分布限界種（当該国立公園、国定公園が日本における分布の東西南北の限界（もしくはそれに近い地域）となっている種）

### ※2

#### (2) 希少種（地域的に特に個体数が少ない植物）

現地調査は、北海学園大学の佐藤教授及び知床博物館の内田学芸員の指導（詳細は 7. 参考を参照）を得て立案した。限られた予算で広域的な調査を実施する必要があるため、植物社会学的調査等の定量的な調査を実施することは非効率的であり、広範囲を踏査し、対象種の分布の有無や分布状況を感覚的に把握することとした。知床国立公園における植物の生育環境を網羅的に把握するため、知床連山、知床岬～相泊、知床五湖周辺、ルシヤ・テッパンベツ地域、山地湖沼群等を調査対象地として選定した。

### 3. 現地調査の実施

現地調査の実施内容と各地域の植生の概況、文献等における過去の状況等は以下のとおり。なお、以下の(1)～(5)には主な対象地域の状況のみをまとめており、これ以外の河川（ルシャ・テッパンベツ、イダシュベツ、モイレウシ、ルサなど）や湿原（目梨湿原など）でも踏査を実施し、結果に反映させている。

#### (1) 知床連山（羅臼岳・硫黄山・縦走路）

針広混交林から高山までの山地の植生を見るため羅臼岳・硫黄山登山道及び縦走路を中心に周辺を調査した。文献や標本などからこの地域にあることが期待されて確認できた種とできなかった種は以下のとおり。

##### a. 今回確認できた主な種

ヒモカズラ、ツルデンダ、オクヤマワラビ、リシリビャクシン、ラウススゲ、タカネクロスゲ、ミヤケスゲ、ヌイオスゲ、タカネタチツボスミレ、シレトコスミレ、キンセイラン、エゾサカネラン、タカネトンボ、カイサカネラン、ヒメムヨウラン、ヒロハトンボソウ、ベニバナヤマシャクヤク、カラフトイチヤクソウ、ホソバツルリンドウ、キヨスミウツボ、チシマヒョウタンボク、カノコソウ、ホソバノシバナ、ゼンテイカ（エゾカンゾウ）、ヒメマイヅルソウ、ミヤマホソコウガイゼキショウ、フォーリーガヤ

タカネタチツボスミレについて新たな産地を確認した。これまで知られていた産地の沢下部にあたり、この産地の分布範囲が拡大したとも捉えられるが、その間においては同種を確認できていない。タカネタチツボスミレは主にアオノツガザクラやチングルマの優占する中性雪田群落の下縁、もしくはタカネトウウチソウが優占する湿性雪田群落の上縁に帯状に分布していてその範囲は広くない。また、開花時期がタカネトウウチソウの展葉時期と重なるため本種を容易に視認できる時期は非常に限られる。雪田環境であるため融雪のタイミングは毎年異なることも知床連山における本種の全体像がなかなか掴めない要因となっている。このため同時に全産地の開花個体を数えることは容易ではないが、今回までの各産地発見時の開花個体数の合計は約 400 個体となる。

##### b. 今回確認できなかった主な種

チシマヒカゲノカズラ、チシマスズメノヒエ

#### (2) 知床岬～相泊

調査機会の多い夏季には見られない植物を確認するため、春植物のエゾシカに対する影響を中心に知床岬や周辺の海岸を調査した。文献や標本などからこの地域にあることが期待されて確認できた種とできなかった種は以下のとおり。

a.今回確認できた主な種

ニオイシダ、エゾイブキトラノオ、シコタンハコベ、エゾイヌナズナ、シレトコトリカブト、コモチレンゲ、ムラサキベンケイソウ、ネムロブシダマ、ネムロシオガマ、ガンコウラン、レブンコザクラ、トカチスグリ、チシマモメンヅル、シャジクソウ、チシマキンバイ、ヒロハノカワラサイコ、アオイスミレ、イブキジャコウソウ、チシマセンブリ、カノコソウ、アサギリソウ、シロヨモギ、シコタンヨモギ、シカギク、イワヨモギ

b.今回確認できなかった主な種

ヒメウシオスゲ、ウミミドリ、エゾツルキンバイ、ドロイ、サカネラン、エゾサカネラン、カラフトゲンゲ、ハマタイセイ、トモシリソウ

塩湿地の可能性を指摘されていたが（佐藤）、確認することはできなかった。カラフトゲンゲ、ハマタイセイ、トモシリソウについては今回確認することができず、近年さらに減少している可能性もある。

### (3) 知床五湖周辺

フレペの滝周辺から硫黄山周辺の針広混交林内、知床五湖周辺やイダシュベツ川周辺の河川沿いや湿原、湖沼などを踏査した。文献や標本などからこの地域にあることが期待されて確認できた種とできなかった種は以下のとおり。

a.今回確認できた主な種

ネムロコウホネ、ミツガシワ、ヨシ、エゾシロネ、ヤラメスゲ、サワギキョウ、タチギボウシ、オニナルコスゲ、エゾアブラガヤ、ホソバノヨツバムグラ、ミズバショウ、ニョイスミレ（ツボスミレ）、トキソウ

タチギボウシについては開花個体を確認することはできなかったが、若い葉については多数確認できた。

トキソウは二湖周辺の連続する湿原において分布と開花時期が異なるふたつの個体群が認められた。一つは 96 平方メートルで 1100 株、もうひとつは 1690 平方メートルで 3400 株であり、後者の個体群の開花が早かった。

b.今回確認できなかった主な種

ヤナギトラノオ、オオカサスゲ、ヒラギシスゲ

また、当地において過去に記録されたことがない可能性がある種は以下のとおり。

タカネトンボ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) (環境省 2012)、ホザキイチヨウラン、キソチドリ、オニノヤガラ

タカネトンボ、ホザキイチョウラン、キソチドリは針広混交林内の沢や凹地などやや湿った環境に、オニノヤガラは融雪時に生じる潤れ沢にまとまって見られた。尚、オニノヤガラには花も茎も緑がかったアオテンマと花が白く茎も白っぽいシロテンマが品種として知られている（シロテンマは別種の見解もある）が、母種オニノヤガラにおいても花が緑がかった黄色のものと、花も茎も赤みがかったものがある。知床半島では赤みがかったものを見たことはない。

#### (4) ルシャ・テツパンベツ地域

ルシャ川、テツパンベツ川の流域や海岸線、針広混交林内等を踏査した。近年、調査研究があまり実施されていなかった地域でもある。調査結果の概要は以下のとおり。

##### ①文献や標本などからこの地域にあることが期待されて確認できた種とできなかった種

###### a. 今回確認できた主な種

ネムロシオガマ、チシマモメンヅル、ナガバキタアザミ(以上、館脇 1954)、セキショウイ、イトヒキスゲ、タカネスイバ、アサギリソウ、ミヤマラッキョウ(以上、滝田)

ネムロシオガマは崖の途中などエゾシカの口が届かないディアライン以上において確認することが出来た。また、確認できなかったがディアライン以上でシコタンタンポポ？も認められた。

###### b. 今回確認できなかった主な種

オオカサモチ、リシリスゲ、ヒロハヒルガオ、ムシャリンドウ、ガマ(以上、館脇 1954)、カノコソウ、ヒオウギアヤメ、ヒラギシスゲ、アズマナルコ(以上、滝田)

##### ②文献からこの地域において現在までに大きく増減したと推定される種

###### a. 減少した種

イワノガリヤス、エゾイブキトラノオ、チシマモメンヅル、トガスグリ、オオカサモチ、ヒオウギアヤメ、エゾカンゾウ、シラネワラビ、ハマニンニク、エゾノコウボウムギ、ハマボウフウ(館脇 1954)

イワノガリヤスは外来イネ科草本もしくはハンゴンソウを主とする高茎草本に置き換わったと推定される。エゾイブキトラノオは崖などのディアライン以上で見ることができるとは推定される。エゾイブキトラノオは崖などのディアライン以上で見ることができるとは推定される。また、この地域にあった個体群は減少した可能性が高いがその他知床の山地にある崩壊地などでは現在も普通に見られる。

エゾマツ林床に多いとされたシラネワラビやその他マイヅルソウ、ツバメオモト等は少なく以前より減少している可能性がある。

また、館脇(1954)ではウトロにおいて「ハマニンニクが断然優勢でエゾノコウボウムギやハマボウフウがこれに随伴している」とある。これらの種は砂浜の減少や人による採集などで減少したと考えられる。

#### b.増加した種

ワラビ、イケマ、ナミキソウ、ハンゴンソウ、ミミコウモリ、トウゲブキ(館脇 1954)、  
ジュウモンジシダ

この内ハンゴンソウについては海岸断崖上部急斜面草原(館脇 1954)において優占し、ワラビ、イケマ、トウゲブキがそれに準じていた。ミミコウモリは森林内の各所で優占し、ナミキソウは海岸草原において一部優占していた。ジュウモンジシダは当地に多いとされるシラネワラビ(館脇 1954)に置き換わっている可能性もある。

③イワノガリヤス草原(館脇 1954)において近年新たに加わり優占または優占に準じる種  
シロツメクサ、ヒメムカシヨモギ、アメリカオニアザミ、カモガヤ、コヌカグサ、ヒロハウシノケグサ、ナガハグサ、オオアワガエリ

ヒロハウシノケグサはルシャ・テッパンベツ川周辺の海岸においてエゾシカ高被食圧下の海岸草原で優占し、カモガヤ、コヌカグサがそれに準じて優占していた。同所にはオオアワガエリも散在していた。また、道路脇などより攪乱の強い場所ではナガハグサが多く、ルシャ・テッパンベツ各々の河川周辺ではヒメムカシヨモギとシロツメクサが多く見られた。

尚、館脇(1954)の記録にはないが他地域の記録からこの時期コヌカグサ、カモガヤ、オオアワガエリはこの地域にもあった可能性はある。

#### ④エゾシカ忌避植物について

ルシャ・テッパンベツ地域の海岸草原と付近の山地にはエゾシカの忌避植物であるハンゴンソウ、イケマ、アメリカオニアザミ、ミミコウモリ、ワラビ、トウゲブキ、ナミキソウが広範囲に広がっている。一方で外来イネ科草本などシカの食用となる可食植物の多くは短く矮小化していた。海岸から海岸付近の山地までを忌避植物が占め、この地域のエゾシカの個体数に対して可食植物の現存量が減ったことから可食植物への被食圧が高まっているのではないかと考えられる。

#### (5)山地湖沼群（羅臼湖周辺など）

羅臼湖において、希少種であるタニマスミレの現状を確認するとともに、羅臼湖周辺の植物相を把握するための踏査を実施した。文献や標本などからこの地域にあることが期待されて確認できた種とできなかった種は以下のとおり。



a.今回確認できた主な種

タチモ、タニマスミレ、チシマウスバスミレ、ウスバスミレ、ムセンスゲ、ヤラメスゲ、ムジナスゲ、サギスゲ、ハリガネスゲ、タカネハリスゲ（ミガエリスゲ）、ヒメワタスゲ、ミヤマフタバラン、ヒメミズニラ、ヒメマイヅルソウ、チシマガリヤス、カラフトホシクサ

タニマスミレについては羅臼湖周辺において開花個体約 600 株を確認した。

b.今回確認できなかった主な種

イトキンポウゲ

#### 4. 現地調査の結果とりまとめ

90 種に関する調査結果を別表 1、別表 2 として取りまとめた。それぞれのリストは平成 22 年度 知床国立公園における指定植物見直しに関する聞き取り調査業務報告書のリストを基本としており、コメント欄に本年度調査の結果を踏まえたコメントを追加するとともに、調査結果を踏まえて色区分による分類を行った。追加候補リストの 75 種については、54 種について、「指定植物への追加が妥当と思われる種」に分類し、21 種については「今後調査が必要と思われる種」に分類した。なお、今後調査が必要と思われる種については、おそらく知床国立公園内には分布しないと考えられるが、今後、現地調査や標本調査を実施した方が良いと考えられる種が大半であった。削除候補種リストの 15 種については、全ての種を「指定植物から削除することが妥当と思われる種」に分類した。

## 5. 指定植物への追加候補種及び削除候補種リストの修正

「平成 24 年度 知床国立公園における指定植物見直しに関する調査業務報告書」及び本年度の調査結果を踏まえ、知床国立公園の指定植物リストの修正について以下のとおり関連する情報を整理した。今年度の調査は主に上記の 90 種を対象としていたが、現地調査を実施する際にそれ以外の種についても状況把握を実施したため、フロラリストの修正や追加候補等の位置付けの再検討を実施している。

以下の(1)～(3)を踏まえ、最終的な指定植物への追加候補種及び削除候補種リストを別表 3、別表 4 として取りまとめた。表の作成方法については別表 1、別表 2 と同様である。

追加候補種のリストについては、「追加候補種リストから削除することが妥当と思われる種」「今後調査が必要と思われる種」「指定植物への追加が妥当と思われる種」の 3 種類に分類して整理した。なお、今後調査が必要と思われる種については、おそらく知床国立公園内には分布しないと考えられるが、今後、現地調査や標本調査を実施した方が良いと考えられる(2)で示した種が大半となっている。

削除候補種のリストについては、「指定植物から削除することが妥当と思われる種」と「指定植物から削除すべきではない種」に分類して整理した。

### (1) 知床半島フロラリストの見直し

今年度の調査によって指定植物の基本となっている知床フロラリスト(内田 2010)に新たに見直しが必要となったため以下に報告する。

#### ① 知床半島新産種

これまでに知床半島において記録のなかった種について以下新産の報告をする。尚、ここで言う知床半島の範囲とはデータブック知床・2010 (斜里町立知床博物館 2010) に拠る。

##### a. サワラン *Eleorchis japonica*

山地の湿原で本種を確認した。知床半島周辺の湿原に分布している事(Hinoma 2007)は知られているが、知床半島ではこれまでに記録がなく本報告が初となる。2013 年の開花個体数は 253 株で、周辺にはトキソウ(開花個体数 336 株)の自生も認められた。

##### b. イセウキヤガラ (ヒメウキヤガラ) *Bolboschoenus planiculmis*

知床半島で新たに認められた塩湿地において本種を確認した。知床半島ではこれまでに記録はなかった。海水の出入りする河口域や半塩性湿地に生え(星野・正木 2011)、日本では北海道から九州まで分布(星野・正木 2011)しているが各地で絶滅危惧種に指定されている。北海道における分布についてははっきりしておらず現在確認中である。2013 年の開花個体は約 20 株であった。尚、知床岬にも本種が自生する可能性が

あり（内田私信）、確認する必要がある。

c. マルミノシバナ（オオシバナ） *Triglochin maritima*

知床半島で新たに認められた塩湿地において本種を確認した。知床半島周辺では根室釧路や網走の海岸部を中心に分布している(Hinoma 2005)が、知床半島ではこれまでに記録はなかった。今回記録されたイセウキヤガラやヒメウシオスゲ、ウミミドリなどと同所し、2013年の開花個体数は約60株であった。

d. ヘラオモダカ *Alisma canaliculatum*

ルシャ川周辺の海岸に近い湿地で確認した。知床半島周辺には分布している(Hinoma 2007)が、知床半島ではこれまで記録がなかった。発見したヘラオモダカの開花個体数は約100株でクロヌマハリイが優占する約20m四方の湿地にあった。

e. チドリケマン *Corydalis kushiroensis*? 絶滅危惧Ⅱ類(VU) (環境省 2012)

テッパンベツ川北部海岸付近の沢で見られた。チドリケマンは北海道の東部・中部に固有である。この種の類似種にナガミノツルケマンとツルケマンがあり、花と果実によって区別ができる(福原 1991)。岩礫の沢地沿いに約30株あった個体は開花時期(9月)ではあったが展葉した葉のみで開花及びつぼみも確認できていない。ルシャ・テッパンベツ地区の調査(渡辺・丹羽 1995)によってナガミノツルケマンが記載されているが標本は無いため今後開花個体を確認して新産報告する必要がある。

②知床半島再発見種

これまでに知床半島において記録されているが、近年記録のなかった種について報告する。

a. ヒメウシオスゲ *Carex subspathacea* 準絶滅危惧(NT) (環境省 2012)

知床半島で新たに認められた塩湿地において確認した。知床半島では館脇(1954)以来記録がなく当地においては塩性の湿地がほとんど無いことなどから絶滅した可能性もあり、知床フロラリストから除外を検討する種として挙がっていた。塩湿地は沖に突き出す岩礁の基部(潮上帯)に堆積した砂地にあり、約1000平方メートルの小さなものであった。ヒメウシオスゲはこの中の約1m四方において群生しているのみであった。

b. ウミミドリ *Glaux maritima* var. *obtusifolia*

知床半島で新たに認められた塩湿地において確認した。知床半島では館脇(1954)以来記録がなく当地においては塩性の湿地がほとんど無いことなどから絶滅した可能性も

あり、ヒメウシオスゲと共に知床フロラリストから除外を検討する種として挙がっていた。この塩湿地にはこの他にエゾツルキンバイやドロイなどの塩湿地性植物が見られた。

c. オオエゾデンダ *Polypodium vulgare*? 絶滅危惧 I B 類(EN) (環境省 2012)

テッパンベツ川北部海岸付近の沢で海食崖の下部に堆積した岩上に見られた。このオオエゾデンダ?は太い根茎や羽片中央寄りにつくソーラスなど概ねオオエゾデンダの特徴を有するが、鱗片は中肋部の色がより濃くエゾデンダ *Polypodium virginianum*に近い特徴も併せ持っていた。同じ沢では本種とは別にエゾデンダも確認されており、雑種である可能性も否定出来ない。オオエゾデンダは知床の植物リスト (内田 2010) に掲載されているが、平成 23 年度知床世界自然遺産地域植物相調査業務ではその存在の根拠に疑問がある種として調査対象に挙げており (内田・浅沼 2012)、これまでに『日本のシダ植物図鑑』に産地として羅臼町羅臼岳の記載があることと、科学博物館に未同定の標本が 1 点残されているところまで確認できている。今後、オオエゾデンダ?の周辺に純粋種が存在する可能性もあることから現地調査と現存する標本の精査が必要となる。

d. エゾアオイスミレ (マルバケスミレ) *Viola collina*?

テッパンベツ川北部海岸草原で確認した。これまでに知床岬(佐藤他 1980)以外において記録はなかった。エゾアオイスミレは海食崖下の斜面に広がった高茎のハンゴンソウが優占する群落の下にアオイスミレと同所的に分布していた。尚、同種はアオイスミレとよく似ているためアオイスミレと同所していたこの個体群については再度調査する必要があり、本報告では暫定とするに留めた。

③今後、確認を要する種

a. イワウサギシダ *Gymnocarpium jessoense*

標本調査の過程で知床産のイワウサギシダの標本が釧路市博物館の収蔵する滝田コレクションにあり、これを確認する必要がある。本種は平成 23 年度知床世界自然遺産地域植物相調査業務 (内田・浅沼 2012) において標本調査の結果、知床半島の維管束植物フロラリストから一旦除外することが適切であるとしていた。

(2) 指定植物対象地域 (知床国立公園内) に存在しない可能性のある種について

標本・文献調査と現地調査から指定植物対象地域 (知床国立公園内) に存在しない可能性が高い種について報告する。

a. タライカヤナギ *Salix taraikensis*

イワウベツ(館脇 1954)において記録されているがその後国立公園内での記録は見られない。現在は国立公園内に無い可能性もある。

b. カラフトメンマ *Dryopteris sichotensis*

遠音別岳(佐藤他 1985)において記録はあるが国立公園内に無い可能性もある。

c. エゾノミズタデ *Persicaria amphibia*

斜里・止別(Miyabe 1884)等、知床半島基部周辺では記録されているが、国立公園内においては記録がなく今回も確認できなかった。

d. フタマタイチゲ *Anemone dichotoma*

標本として記録があるのは斜里平野部(1894,1949,2003)で、知床半島基部周辺においては自生するが国立公園内には存在しない可能性がある。

e. オオヤマオダマキ *Aquilegia buergeriana* var. *oxysepala*

知床半島基部周辺には分布するが国立公園内においてはこれまでに記録がない。

f. エゾノタチツボスミレ *Viola acuminata*

知床半島基部や中央部の低地では普通に見られるが国立公園内では記録がなく存在しない可能性もある。

g. オオマルバノホロシ *Solanum megacarpum*

ウトロ(館脇 1954)において記録されているがその後記録がない。現在は国立公園内に存在しない可能性もある。

h. ヨツバシオガマ *Pedicularis chamissonis* var. *japonica*

荒沢(1984)に記録はあるが、知床半島及び国立公園内においてその他に記録はなく存在しない可能性も含めて検討を要する。

i. ハマウツボ *Orobanche coerulescens*

今回の調査では確認することが出来なかった。国立公園内に存在しない可能性もある。

j. チシマキンレイカ(タカネオミナエシ) *Patrinia sibirica*

遠音別岳(Sato1984)で記録されているが国立公園内においては記録がなく今回も確認することはできなかった。

k.チシマスズメノヒエ *Luzula kjellmanniana*

知床半島で記録があるとされるが実態はつかめていない。本種は環境省レッドリスト(環境省 2012)においても情報不足(DD)と判定されている。

※その他削除候補種

以下の種についても存在しない可能性があり、今後、慎重に検討する必要がある。

知床半島の維管束植物フロラから除外を検討したが、標本調査等が不十分なため除外はしていない種(平成23年度知床世界自然遺産地域植物相調査業務)

ツリフネソウ、シロウマアカバナ、テイネニガクサ、コアマモ、シコタンザサ、オハグロスゲ、アオチドリ

(3) 追加候補リストのうち、位置付けを再検討した種

昨年度、「追加候補種リストから削除することが妥当と思われる種」「追加候補種リストから削除することを検討すべき種」「指定植物への追加が妥当と思われる種」と判断した種に関して、今年度の現地調査の結果を踏まえて、以下のとおり位置付けを再検討した。また、「追加候補種リストから削除することが妥当と思われる種」の分類は今回は実施していないため、以下の a.と b.に記載した以外のは追加候補種リストから削除することが妥当と思われる種と整理した。

a.ミズドクサ、イチイ、クロバナロウゲ、ゼンテイカ、タチギボウシ

個体数が少なくないため追加候補種リストから削除することを検討すべき種と位置付けていたが、シカによる食害等により個体数が減少している可能性があるため、指定植物への追加が妥当と思われる種に変更した。

b.エゾノシモツケソウ、メアカンキンバイ、タカネナナカマド、エゾシモツケ、シレットコスミレ、オオバタチツボスミレ、シロスミレ、ホソバアカバナ、コエゾツガザクラ、レブンコザクラ、ホロムイソウ、エゾヒメネギ、スズラン、ミヤマイ、コメススキ、ミヤマドジョウツナギ、カラフトイチゴツナギ、ザラバナソモソモ、ホソバナソモソモ、ハクサンスゲ、ムジナスゲ、ヤラメスゲ、エゾノコウボウムギ、タカネハリスゲ、コウボウシバ、キンスゲ、リシリスゲ、ミヤケスゲ、ミカヅキグサ、サルメンエビネ、ギンラン、コイチヨウラン、オニノヤガラ、アリドオシラン、タカネトンボ、オオヤマサギソウ、ガッサンチドリ

個体数は少なくないが、他の追加候補種と比較して、明確に個体数が多いわけではなく、産地が限られるため、指定植物への追加が妥当と思われる種に変更した。

c.タライカナヤギ、エゾノタチツボスミレ、クシロホシクサ

国立公園内には分布しない可能性が高いが、今後も継続して調査が必要と判断し、今後調査が必要と思われる種に変更した。クシロホシクサについては、現段階ではカラフトホシクサのシノニムとされている。



## 6. 指定植物に追加を検討したほうが良いと考えられる種

これまでの検討の中では指定植物への追加候補とはなっていないが、以下の植物は個体数また産地の少なさから指定植物に追加を検討したほうが良いと考えられるため、参考として記録する。なお、下記の種については別表 3 には記載していない。

### a. チシマコゴメグサ *Euphrasia mollis*

高橋・岩崎(2007)によって発見された日本新産種。「本種は個体数、産地数とも限られているので、知床半島の新たな絶滅危惧種として指定する必要がある」とされている。

### b. オオフガクスズムシ *Liparis koreojaponica* 絶滅危惧 I B 類(EN) (環境省 2012)

個体数が少なく産地も多くない。また、近縁種であるクモキリソウ *Liparis kumokiri* も知床のフロラリストには掲載されていないが存在すると思われ今後精査する必要がある。

### c. ヒメミヤマウズラ *Goodyera repens*

イワウベツ周辺などの針広混交林でこれまでヒメミヤマウズラとされていたものはミヤマウズラ *Goodyera schlechtendaliana* である可能性が高い。これとは別に羅臼側の針葉樹林においてヒメミヤマウズラの個体群が確認されており、羅臼側のヒメミヤマウズラと形態の比較の結果、フロラリストに掲載されているヒメミヤマウズラはミヤマウズラである可能性が高いと考えられる(内田・浅沼 未発表)。したがってフロラリストでヒメミヤマウズラとしていたものをミヤマウズラに改め、新たにヒメミヤマウズラを新産として報告したほうが良いかもしれない。

### d. ツルアリドオシ *Mitchella undulata*

本種は道北から道南にかけて普通に見られるが、道東での分布は限られる(Hinoma 2007)。知床半島は少ない産地の一つであるが、半島内においても産地は少なく個体数も多くない。

### e. ムラサキヤシオツツジ *Rhododendron albrechtii*

知床半島のムラサキヤシオは日野間(2007)に分布の記載があり、また館脇(1954)にもカムイワッカ上流にて記録はあるが知床のフロラには含まれていない。証拠が無いためと考えられるが今後も引き続き調査が必要な種である。

## 7. 参考

### (1) 北海学園大学の佐藤教授のヒアリング内容

- ・昨年度同様、広範囲を踏査し、対象種の分布の有無や分布状況を感覚的に把握することで良いと考える。調査対象範囲は、知床連山、知床岬～相泊、知床五湖周辺、ルシャ・テッパンベツ地域、山地湖沼群などで適切。
- ・知床国立公園の植生については、地元である知床博物館の内田学芸員と浅沼氏（ククマシステムデザイン）がもっともよく把握しているだろう。内田学芸員と内容をよく調整し、調査を実施してもらえれば問題は無いはず。
- ・昨年度に見られた塩湿地は他にもあるはずなので引き続き調査すること。

### (2) 知床博物館の内田学芸員のヒアリング内容

- ・昨年度同様、広範囲を踏査し、対象種の分布の有無や分布状況を感覚的に把握することで良いと考える。調査対象範囲は、知床連山、知床岬～相泊、知床五湖周辺、ルシャ・テッパンベツ地域、山地湖沼群などで適切。
- ・指定植物の見直しにあたっては、きちんとしたフロラリストの整備が必須である。その点に留意し、フロラリストから除外すべきと思われる種の現地確認を重点的に実施するなどが重要である。
- ・オオエゾデング？が雑種である可能性もあり、純粋種が周辺に存在するかもしれないので引き続き調査が必要である。
- ・ルシャ・テッパンベツのフロラについては滝田謙義氏が過去に調査を行っているがその際のリストは残されていないため、北大植物園にある標本をあたる必要があるだろう。

### (3) 外来種について

今回の現地調査で把握した外来種情報を以下に報告する。

#### a. アメリカオニアザミ *Cirsium vulgare*

ルシャ・テッパンベツ地域ではルシャ川に沿って標高 150m 付近まで分布が認められた。これまでに同種の知床連山稜線上における定着は認められていないが、標高の低い鞍部では稜線近くまで分布が広がっている。また、羅臼側相泊から知床岬までの海岸沿いでは相泊から化石浜までと、ペキンノ鼻から知床岬までは海岸沿いに分布していたが、化石浜からペキンノ鼻付近までの間では一旦認められなくなった。本種は知床半島では生育時期に気温が高い斜里側でいち早く広がり知床岬まで到達し、その後岬を回ってペキンノ鼻付近まで分布を広げ、羅臼側も化石浜まで広がってきたと考えられる。アメリカオニアザミは、定着することが出来ない高山地域とまだ到達していない一部海岸を除いてほぼ知床半島全域に広がった可能性が高い。

#### b. セイヨウトゲアザミ *Cirsium arvense*

ルシャ川付近の海岸で開花個体約 30 株を発見した。知床半島ではウトロ地区で記録があり(松木恒男他 1995)、分布を広げている可能性がある。発見した個体は海岸草原の一部約 5m 四方にかたまっており、その他地域では見られなかった。本種はエゾノキツネアザミに似るが葉の縁に鋭い刺がある(滝田 2001)。牧草地ではウシが食べ残すため増加する(国立環境研究所侵入生物データベース 2014)ことからアメリカオニアザミ同様エゾシカの忌避植物として今後増加する可能性も考えられる。

## 8. 引用文献

- 荒澤勝太郎. 1984. 知床の草木花. 北海タイムス社, 札幌.
- 浅沼孝夫. 2013. 平成 24 年度国立公園等民間活用特定自然環境保全活動 (グリーンワーカ  
ー) 事業「知床国立公園における指定植物の見直しに関する調査業務」. 環境省, 東京.
- 五十嵐博. 1998. 北海道野生植物研究所報告. NO.7 Vol.2. No.3 Autamu. 1998.
- 五十嵐博. 1998. 北海道野生植物研究所報告. NO.26 Vol.7. No.2 Summer. 2003.08.02.
- 五十嵐博. 2001. 北海道帰化植物便覧-2000 年版-. 北海道野生植物研究所.
- 岩槻邦男. 1992. 日本の野生植物シダ. 平凡社, 東京.
- 内田暁友. 2003. 斜里町の絶滅危惧植物チェックリスト. 知床博物館研究報告. 斜里町立知  
床博物館, 斜里町.
- 内田暁友. 2007. 野外図鑑知床のシダ. 斜里町立知床博物館, 斜里町.
- 内田暁友 (編). 2010. データブック知床・2010. 斜里町立知床博物館, 斜里町.
- 内田暁友・浅沼孝夫. 2012. 平成 23 年度知床世界自然遺産地域植物相調査業務. 環境省, 東  
京.
- 環境省. 2010. 平成 22 年度知床国立公園における指定植物見直しに関する聞き取り調査業  
務報告書.
- 環境省. 2012. 環境省第 4 次レッドリスト (2012) 植物 I (維管束植物).
- 釧路市博物館. 釧路市博物館所蔵滝田謙讓標本リスト.
- 佐藤謙・西川恒彦・酒井聡樹・松井淳・甲山隆司・小池文人・小林正寛・伊藤浩司. 1985.  
遠音別岳原生自然環境保全地域と知床半島全域の維管束植物相. 環境庁 (編), 遠音別岳原  
生自然環境保全地域調査報告書. 環境庁, 東京.
- 高橋英樹・岩崎健. 2007. 平成 18 年度 知床世界自然遺産地域生態系モニタリング調査業  
務報告書. 環境省, 東京.
- 高橋英樹・岩崎健. 2008. 平成 19 (2007) 年度知床世界自然遺産地域生態系モニタリング  
調査業務報告書. 環境省, 東京.
- 国立環境研究所 侵入生物データベース 2014/1/18  
<http://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/81010.html>
- 田川基二. 1959. 原色日本羊歯植物図鑑. 保育社.
- 滝田謙讓. 2001. 北海道植物図譜. 自費出版, 釧路.
- 館脇操. 1954. 知床半島の植生. 北見営林局.
- 日野間彰. 2008. FLORA OF HOKKAIDO Distribution Maps of Vascular Plants in  
HOKKAIDO, JAPAN.
- 北海道大学総合博物館. 2010. 北海道大学総合博物館 (SAPS) 所蔵知床半島地域産維管束  
植物標本データベース (分類順) rev.9 (March, 2010).
- 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園. 北海道大学北方生物圏フィールド

科学センター植物園所蔵滝田謙讓標本リスト.

星野卓二・正木智美. 2011. 日本産カヤツリグサ科植物図譜. 平凡社, 東京.

松木恒男他. 1995. 植物標本資料目録(合弁花類). 北網圏北見文化センター.

渡辺・丹羽 1995. 平成 7 年度生態系多様性地域調査 (ルシヤ・テッパンベツ地区) 報告書.  
環境庁, 東京.

別表1: 指定植物への追加候補種リストのうち、本業務で調査対象とした75種

内田 リストNo	種名	浅沼氏	浅沼氏_備考	佐藤氏	佐藤氏_備考	RDB(北海道)	RL(環境省)	コメント
11	オオミズゴケ						絶滅危惧I類(CR+EN)	今回の調査において確認することは出来なかった。個体数は少ない可能性がある
100	チシマヒカゲノカズラ			追加		希少種 (R)	絶滅危惧 I B類 (EN)	標本にて確認(平成23年度知床世界自然遺産地域植物相調査業務)できたが、現地調査においては確認できなかった。今後も引き続き調査する必要がある
	コスギラン			追加				今回の調査において確認することは出来なかった。個体数は少ない可能性がある
115	ヒメミズニラ	追加	個体数が少ない。	追加		絶滅危急種(Vu)		一部湖沼では個体数が多い可能性はあるが産地は限られる
140	カラフトメンマ	追加	個体数が少ない。	追加		希少種 (R)		遠音別岳(佐藤) 今回の調査で確認することが出来なかった。国立公園内に無い可能性もある
147	カラクサイノデ			追加	内田氏要相談			今回の調査において確認することは出来なかった。個体数は少ない可能性がある
148	イワシロイノデ			追加	内田氏要相談			今回の調査において確認することは出来なかった。個体数は少ない可能性がある
159	オオエゾデンダ			追加		希少種 (R)	絶滅危惧 I B類 (EN)	『日本のシダ植物図鑑』に雑種可雑出苗の記述あり、以降未確認。今回の調査ではエゾデンダとの雑種と推定される個体が見られ純粋種が知床半島に存在する可能性が高まった。今後周辺の調査が必要となる
	コウヤワラビ							同等の海岸などで普通に見られたが、知床半島内における個体数は多くない

内田 リストNo	種名	浅沼氏	浅沼氏_備考	佐藤氏	佐藤氏_備考	RDB(北海道)	RL(環境省)	コメント
197	タカネイワヤナギ(エゾノタカネヤナギを含む)			追加				今回の調査において確認することは出来なかった。個体数は少ない可能性がある
231	ムカゴトラノオ			追加				今回の調査において確認することは出来なかった。個体数は少ない可能性がある
236	エゾノミズタデ					絶滅危急種(Vu)		斜里・止別(Miyabe 1884)等、知床半島基部では記録されているが、国立公園内においては記録がなく今回も確認できなかった。
261	タチハコベ			追加			絶滅危惧Ⅱ類(VU)	今回の調査において確認することは出来なかった。個体数は少ないかもしくは国立公園内には無い可能性もある
283	オカヒジキ			追加				知床岬付近の海岸で見られたが個体数は多くない。砂浜が比較的少ない国立公園内では生育環境は限られ、また、海岸に迫る道路や防波堤などで減少している可能性がある
297	フタマタイチゲ			追加	内田氏要相談	希少種(R)	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	標本として記録があるのは斜里平野部(1949,1894)で、知床半島基部に自生する可能性はあるが国立公園内は存在しない可能性が高い。
301	オオヤマオダマキ			追加	内田氏要相談			知床半島基部周辺には分布するが国立公園内においてはこれまでに記録がない。
305	クロバナハンショウヅル					希少種(R)	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	今回の調査において確認することは出来なかった。個体数は少ない可能性がある
309	バイカモ			追加		希少種(R)		国立公園内では生息可能な流域は多くはなく個体数は少ない

内田 リストNo	種名	浅沼氏	浅沼氏_備考	佐藤氏	佐藤氏_備考	RDB(北海道)	RL(環境省)	コメント
315	チャボカラマツ				内田氏リスト_種名を採用		絶滅危惧Ⅱ類(VU)	今回確認することは出来なかったが個体数は少ない可能性がある
324	ネムロコウホネ					絶滅危急種(Vu)	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	産地が一部の湖沼に限定される
337	エゾオトギリ						絶滅危惧Ⅱ類(VU)	今回の調査において確認することは出来なかった。個体数は少ない可能性がある
352	トモシリソウ					絶滅危急種(Vu)	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	今回の調査において確認することは出来なかった。個体数は少ない可能性がある
354	エゾズシロ			追加	内田氏要相談			今回の調査において確認することは出来なかった。個体数は少ない可能性がある
355	ハマタイセイ			追加		絶滅危惧種(En)	絶滅危惧ⅠA類(CR)	今回の調査において確認することは出来なかった。個体数は少ない可能性がある
365	ムラサキベンケイソウ						絶滅危惧Ⅱ類(VU)	今回の調査で確認出来たが個体数は多くない
382	トカチスグリ						絶滅危惧Ⅱ類(VU)	海岸周辺の崩壊地等に見られた。個体数は多くない
414	ミヤマキンバイ			追加	内田氏要相談			今回の調査において確認することは出来なかった。個体数は少ない可能性がある



内田 リストNo	種名	浅沼氏	浅沼氏_備考	佐藤氏	佐藤氏_備考	RDB(北海道)	RL(環境省)	コメント
417	ヒロハノカワラサイコ						絶滅危惧Ⅱ類(VU)	今回の調査で確認する事はできたが、個体数は少ない可能性がある
445	カラフトゲンゲ(チシマゲンゲを含む)			追加		希少種(R)	絶滅危惧ⅠA類(CR)	今回の調査では確認することが出来なかった。個体数はかなり少ない可能性がある
485	ツリフネソウ			追加	内田氏要相談			知床半島の維管束植物フロラから除外を検討したが、標本調査が不十分なため除外はしていない(平成23年度知床世界自然遺産地域植物相調査業務)(要調査)
494	ミツバウツギ			追加	内田氏要相談			個体数は少なく近年減少している可能性がある
515	タニマスミレ	追加	個体数が少ない。	追加		絶滅危惧種(Cr)	絶滅危惧ⅠB類(EN)	今回の調査で確認することは出来たが産地は限定され個体数は少ない
518	エゾアオイスミレ(マルパケスミレ)			追加				今回の調査において知床岬以外でも確認することが出来たが個体数は少なく産地も限定される
530	シロウマアカバナ			追加	高山に生息する種のため	希少種(R)		同定が困難で実態が掴めていない(要調査)知床半島の維管束植物フロラから除外を検討したが、野外調査が不十分なため除外はしていない(平成23年度知床世界自然遺産地域植物相調査業務)
552	コガネサイコ			追加				ホタルサイコより小花柄の長さが短いことで区別される変種。海岸の岩場で見られたが個体数は多くない
642	バシクルモン			追加		絶滅危惧種(Vu)	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	産地が限定される

内田 リストNo	種名	浅沼氏	浅沼氏_備考	佐藤氏	佐藤氏_備考	RDB(北海道)	RL(環境省)	コメント
644	オオマルバノホロシ			追加				ウトロ(館脇 1954)において記録されているがその後記録がない。現在は国立公園内に無い可能性もある
670	ムシャリンドウ					絶滅危急種(Vu)	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	今回の調査において確認することは出来なかった。個体数は少ない可能性があり、また大きく減少した可能性もある(館脇 1954)
681	ヤマタツナミソウ			追加				今回確認することは出来なかった。個体数は少ない可能性がある
685	テイネニガクサ			追加		希少種(R)		知床半島の維管束植物フロラから除外を検討したが、野外調査が不十分のため除外はしていない(平成23年度知床世界自然遺産地域植物相調査業務)(要調査)
695	ヨツバシオガマ			追加				荒沢(1984)に記録はあるが、知床半島及び国立公園内においてその他の記録はない。
697	ネムロシオガマ					希少種(R)	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	海岸付近の岩場で見られたが個体数は多くない
706	テングクワガタ			追加				今回の調査において確認することは出来なかった。個体数は少ない可能性がある
709	ハマウツボ					希少種(R)	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	今回の調査において確認することは出来なかった。国立公園内に存在しない可能性もある
724	エゾヒョウタンボク			追加			絶滅危惧Ⅱ類(VU)	今回の調査において確認することは出来なかった。個体数は少ない可能性がある

内田 リストNo	種名	浅沼氏	浅沼氏_備考	佐藤氏	佐藤氏_備考	RDB(北海道)	RL(環境省)	コメント
726	チシマヒョウタンボク			追加			絶滅危惧Ⅱ類(VU)	今回の調査で確認することはできたが、個体数は少なく、近年、減少している可能性がある
727	ネムロブシダマ						絶滅危惧Ⅱ類(VU)	今回の調査で確認することはできたが、個体数は少なく、近年、減少している可能性がある
729	エゾニフトコ			追加				個体数が特に少ない種ではないが、シカの集中する場所では減少している。
737	チシマキンレイカ(タカネオミナエシ)			追加				遠音別岳(Sato1984)で記録されているが国立公園内においては記録がなく今回も確認できなかった。
827	オオアマモ			追加	内田氏要相談		絶滅危惧Ⅱ類(VU)	海中の調査はまだ十分行っていないため今後調査が必要である
828	スゲアマモ			追加	内田氏要相談			海中の調査はまだ十分行っていないため今後調査が必要である
829	アマモ			追加	内田氏要相談			海中の調査はまだ十分行っていないため今後調査が必要である
830	コアマモ			追加	内田氏要相談			知床半島の縦貫米穂物フロアから除外を 検討したが、標本調査が不十分のため除外はしていない(平成23年度知床世界自然遺産地域植物相調査業務)海中の調査はまだ十分行っていないため今後調査が必要である
865	シラオイエンレイソウ						絶滅危惧Ⅱ類(VU)	オオバナノエンレイソウとミヤマエンレイソウの自然交配種ではあるが個体数は多くない

内田 リストNo	種名	浅沼氏	浅沼氏_備考	佐藤氏	佐藤氏_備考	RDB(北海道)	RL(環境省)	コメント
874	エゾホソイ			追加				山地の湿地で普通に見られたが産地は限定される
876	ハマイ			追加				今回の調査では確認できなかった。個体数は多くない可能性がある
877	ミヤマホソコウガイゼキショウ			追加		希少種 (R)		個体数は少なくはないが産地はある程度限定される
879	エゾノミクリゼキショウ			追加		希少種 (R)	絶滅危惧 I B類 (EN)	今回の調査では確認できなかった。個体数は多くない可能性がある
880	セキショウイ						絶滅危惧 II 類 (VU)	今回の調査で確認できたが、個体数は多くない可能性がある
886	チシマスズメノヒエ			追加	内田氏要相談			知床半島で記録があるとされるが実態はつかめていない。
916	ヒロハノコメスキ			追加				今回の調査において確認することは出来なかった。個体数は少ない可能性がある
919	ハマムギ			追加				海岸で見られたが産地は多くない。
920	エゾムギ			追加			絶滅危惧 I A類 (CR)	今回の調査において確認することは出来なかった。個体数は少ない可能性がある

内田 リストNo	種名	浅沼氏	浅沼氏_備考	佐藤氏	佐藤氏_備考	RDB(北海道)	RL(環境省)	コメント
929	ミノボロ			追加				今回の調査で確認できなかったが、個体数は少なく近年、減少している可能性がある。
	ヒメカラフトイチゴツナギ							カラフトイチゴツナギ <i>Poa macrocalyx</i> Trautv. et C.A.Mey. 広義の変種とされていたが、ヒメカラフトイチゴツナギ <i>Poa sachalinensis</i> (Koidz.) Honda の見解もあるザラバナソノモ、ホソバナソノモを追加リストに加えるのであれば本種も検討すべき
955	シコタンザサ			追加				知床半島の維管束植物フロラから除外を検討したが、野外調査が不十分のため除外はしていない(平成23年度知床世界自然遺産地域植物相調査業務)(要調査)
965	ホソバウキミクリーホソバタマミクリ	追加	特に個体数が少ない。	追加		希少種 (R)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	生息地における個体数は少なくないが、産地が限られている。
971	オハグロスゲ					希少種 (R)	絶滅危惧ⅠB類 (EN)	知床半島の維管束植物フロラから除外を検討したが、標本調査が不十分のため除外はしていない(平成23年度知床世界自然遺産地域植物相調査業務)(要調査)
974	タルマイスゲ			追加		希少種 (R)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	今回の調査において確認することは出来なかった。個体数は少ない可能性がある
1014	イトヒキスゲ			追加			絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	今回の調査で確認出来たが個体数は多くない可能性がある。また本種を半島の羅臼側では確認できていない
1046	アオチドリ			追加				知床半島の維管束植物フロラから除外を検討したが、野外調査が不十分のため除外はしていない(平成23年度知床世界自然遺産地域植物相調査業務)(要調査)
1055	ミヤマモジズリ			追加				今回の調査において確認することは出来なかった。個体数は少ない可能性がある

内田 リストNo	種名	浅沼氏	浅沼氏_備考	佐藤氏	佐藤氏_備考	RDB(北海道)	RL(環境省)	コメント
1071	エゾチドリ			追加				今回確認することは出来なかった。個体数は少ない可能性がある
	サワラン							知床新産(浅沼、未発表)知床での個体数は少なく253株であった
1078	ネジバナ			追加				国立公園内では産地は限定され、個体数は多くない可能性がある

合計 75

表の色区分について

- 今後も調査が必要と思われる種 21
- 指定植物への追加が妥当と思われる種 54

別表2: 指定植物からの削除候補種リストのうち、本業務で調査対象とした15種

内田リスト No	種名	浅沼氏	浅沼氏_備考	佐藤氏	佐藤氏_備考	コメント
439	ホザキシモツケ	削除	外から侵入してきたものではないか?	追加	内田氏要相談	国立公園外では自生している。知床横断道路など道路脇に自生するが工事で持ち込まれた土砂に抛る可能性もある
539	エゾゴゼンタチバナ	削除	分布しないのではないかな?	追加	内田氏要相談	今回の調査では確認することが出来なかった。国立公園内においてこれまでに記録がなく自生しない可能性が高い
569	コメツツジ	削除	分布しないのではないかな?	そのまま	内田氏要相談	今回の調査では確認することが出来なかった。国立公園内においてこれまでに記録がなく自生しない可能性が高い
585	ヒメイソツツジ	削除	分布しないのではないかな?	そのまま	内田氏要相談	今回の調査では確認することが出来なかった。国立公園内においてこれまでに記録がなく自生しない可能性が高い
594	ナガバツガザクラ	削除	分布しないのではないかな?	そのまま	内田氏要相談	今回の調査では確認することが出来なかった。国立公園内においてこれまでに記録がなく自生しない可能性が高い
601	ヒメツルコケモモ			そのまま	内田氏要相談	今回の調査では確認することが出来なかった。国立公園内においてはこれまでに記録がなく自生しない可能性もあるが今後も引き続き調査が必要である
626	クシロワチガイ	削除	本当にあるのか?	そのまま	内田氏要相談	今回の調査では確認することが出来なかった。国立公園内においてこれまでに記録がなく自生しない可能性が高い
664	エゾムラサキ	削除	分布しないのではないかな?	削除		知床半島基部にはあるが国立公園内ではこれまでも記録はなく自生しない可能性が高い
715	ムシトリスミレ	削除	分布しないのではないかな?	そのまま		今回の調査では確認することが出来なかった。国立公園内においてはこれまでに記録がなく自生しない可能性が高い引き続き調査が必要である
764	コハマギク (チシマコハマギクを含む)			削除		チシマコハマギク <i>Chrysanthemum arcticum</i> subsp. <i>yezoense</i> は標本にて確認されているため削除せず、コハマギク <i>Chrysanthemum yezoense</i> は知床半島の維管束植物フロラリストから一旦除
	シカギク			そのまま	内田氏要相談	今回の調査で確認することができた。個体数は少なくはない

内田リスト No	種名	浅沼氏	浅沼氏_備考	佐藤氏	佐藤氏_備考	コメント
	クルマユリ			そのまま	内田氏要相談	今回の調査で確認することができた。個体数は少なくはない
	ヒメカイウ			そのまま	内田氏要相談	今回の調査では確認することが出来なかった。国立公園内においてはこれまでに記録がなく自生しない可能性が高い。引き続き調査が必要である
	アケボノシュスラン			そのまま		今回の調査では確認することが出来なかった。館脇(1954)に記載があるがその後記録はなく、国立公園内では自生しない可能性も含めて検討する必要がある
	ミズチドリ			そのまま	内田氏要相談	今回の調査では確認することが出来なかった。国立公園内においてはこれまでに記録がなく自生しない可能性が高い

合計

15

表の色区分について

●指定植物から削除することが妥当と思われる種

15



別表3: 指定植物への追加候補種リスト(平成25年度版)

内田 リストNo	種名	浅沼氏	浅沼氏_備考	佐藤氏	佐藤氏_備考	RDB(北海道)	RL(環境省)	コメント
11	オオミズゴケ						絶滅危惧I類(CR+EN)	今回の調査において確認することは出来なかった。個体数は少ない可能性がある
36	ヒカリゴケ						絶滅危惧I類(CR+EN)	産地は限定される
100	チシマヒカゲノカズラ			追加		希少種(R)	絶滅危惧 I B類(EN)	標本にて確認(平成23年度知床世界自然遺産地域植物相調査業務)できたが、現地調査においては確認できなかった。今後も引き続き調査する必要がある
	コスギラン			追加				今回の調査において確認することは出来なかった。個体数は少ない可能性がある
112	ヒモカズラ	追加	個体数が少ない。					知床においてエゾノヒモカズラは普通に見られるがヒモカズラはごく稀である(野外図鑑知床のシダ)今回の調査でもエゾノヒモカズラは普通に見られヒモカズラは少なかった
113	エゾノヒモカズラ						絶滅危惧 II 類(VU)	知床においてエゾノヒモカズラは普通に見られるがヒモカズラはごく稀である(野外図鑑知床のシダ)今回の調査でもエゾノヒモカズラは普通に見られヒモカズラは少なかった
115	ヒメミズニラ	追加	個体数が少ない。	追加		絶滅危急種(Vu)		一部湖沼では個体数が多い可能性はあるが産地は限られる
117	ミズドクサ			追加				水辺や湿地にある、個体数は少なくはないが、シカによると思われる食痕が見られ減少している可能性がある
125	コケシノブ	追加	個体数が少ない。	追加				山地の崖地で見られたが、個体数は多くない

内田 リストNo	種名	浅沼氏	浅沼氏_備考	佐藤氏	佐藤氏_備考	RDB(北海道)	RL(環境省)	コメント
131	カラクサシダ			追加				山地の岩場や崖地で見られた、個体数は多くない
134	チャセンシダ	追加	個体数が少ない。	追加		希少種 (R)		山地の崖地に見られ、非常に少ない、国立公園内の産地は1箇所のみ知られている
139	オクヤマシダ			追加				普通に見られた、個体数については特に少ないとは思われない
140	カラフトメンマ	追加	個体数が少ない。	追加		希少種 (R)		遠音別岳(佐藤) 今回の調査で確認することが出来なかった。国立公園内に無い可能性もある
146	ツルデンダ	追加	個体数が少ない。					河川沿いの崖地などに散在する、個体数は多くはない
147	カラクサイノデ			追加	内田氏要相談			今回の調査において確認することは出来なかった。個体数は少ない可能性がある
148	イワシロイノデ			追加	内田氏要相談			今回の調査において確認することは出来なかった。個体数は少ない可能性がある
155	オオバシヨリマ	追加	個体数が少ない。					雪田群落を構成する主要な種で、雪田では普通に見られる
158	エゾデンダ			追加				岩壁や樹木に着生する、個体数は多くない
159	オオエゾデンダ			追加		希少種 (R)	絶滅危惧 I B類 (EN)	『日本のシダ植物図鑑』に羅臼町羅臼岳の記述あり、以降未確認。今回の調査ではエゾデンダとの雑種と推定される個体が見られ純粋種が知床半島に存在する可能性が高まった。今後周辺の調査が必要

内田 リストNo	種名	浅沼氏	浅沼氏_備考	佐藤氏	佐藤氏_備考	RDB(北海道)	RL(環境省)	コメント
162	オクヤマワラビ	追加	個体数が少ない。	追加				岩の多い一部の雪田の底部でのみ確認しており、個体数は少ない
169	ナヨシダ			追加				海岸の崖地に見られたが、少ない
174	ウサギシダ			追加				山地で普通に見られる
	コウヤワラビ							同等の海岸などで普通に見られたが、知床半島内における個体数は多くない
179	ミヤマイワデンド	追加	個体数が少ない。	追加		希少種 (R)		海岸から山地の崖地で見られ、個体数は少ない
187	ミヤマビャクシン(シンパク)	追加	個体数が少ない。	追加		絶滅危急種(Vu)		海岸や河川沿いの崖地に見られた、個体数は少ない
189	リシリビャクシン					絶滅危惧種(En)	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	ハイマツ林下に点在するが、個体数は多くはない
190	イチイ	追加	個体数が少ない。	追加				知床半島内での個体数は少なくないが、エゾシカに拠る樹皮食痕は散見される
197	タカネイワヤナギ(エゾノタカネヤナギを含む)			追加				今回の調査において確認することは出来なかった。個体数は少ない可能性がある
200	キヌヤナギ			追加	キヌヤナギ(エゾノキヌヤナギ)にしては？			河川沿いなどで普通に見られる

内田 リストNo	種名	浅沼氏	浅沼氏_備考	佐藤氏	佐藤氏_備考	RDB(北海道)	RL(環境省)	コメント
201	タライカヤナギ						絶滅危惧Ⅱ類(VU)	イワウベツ(館脇 1954)において記録されているがその後国立公園内での記録は見られない。現在は国立公園内に無い可能性もある
215	ハルニレ			追加				低地で普通に見られた、エゾシカに拠る樹皮食痕は多い
216	オヒョウ			追加				溪畔林内で見られたが少ない、エゾシカに拠る樹皮食痕が多い
231	ムカゴトラノオ			追加				今回の調査において確認することは出来なかった。個体数は少ない可能性がある
236	エゾノミズタデ					絶滅危急種(Vu)		斜里・止別(Miyabe 1884)等、知床半島基部では記録されているが、国立公園内においては記録がなく今回も確認できなかった。
261	タチハコベ			追加			絶滅危惧Ⅱ類(VU)	今回の調査において確認することは出来なかった。個体数は少ないかもしくは国立公園内には無い可能性もある
283	オカヒジキ			追加				知床岬付近の海岸で見られたが個体数は多くない。砂浜が比較的少ない国立公園内では生育環境は限られ、また、海岸に迫る道路や防波堤などで減少している可能性がある
295	キタミフクジュソウ				内田氏リスト_種名を採用	絶滅危急種(Vu)		海岸から低地にかけて普通に見られた
297	フタマタイチゲ			追加	内田氏要相談	希少種(R)	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	標本として記録があるのは斜里平野部(1949,1894)で、知床半島基部に自生する可能性はあるが国立公園内には存在しない可能性が高い。
301	オオヤマオダマキ			追加	内田氏要相談			知床半島基部周辺には分布するが国立公園内においてはこれまでに記録がない。

内田 リストNo	種名	浅沼氏	浅沼氏_備考	佐藤氏	佐藤氏_備考	RDB(北海道)	RL(環境省)	コメント
305	クロバナハンショウヅル					希少種 (R)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	今回の調査において確認することは出来なかった。個体数は少ない可能性がある
309	バイカモ			追加		希少種 (R)		国立公園内では生息可能な流域は多くはなく個体数は少ない
312	イトキンポウゲ	追加	特に個体数が少ない。	追加		希少種 (R)		山地の湖岸で確認しているが、稀である
315	チャボカラマツ				内田氏リスト_種名を採用		絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	今回確認することは出来なかったが個体数は少ない可能性がある
324	ネムロコウホネ					絶滅危急種 (Vu)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	産地が一部の湖沼に限定される
329	ベニバナヤマシャクヤク	追加	特に個体数が少ない。			絶滅危惧種 (En)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	針広混交林で見られたが、個体数は少ない
330	シラネアオイ			追加		絶滅危急種 (Vu)		針広混交林からダケカンバ林にかけて見られたが、個体数は多くはない
337	エゾオトギリ						絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	今回の調査において確認することは出来なかった。個体数は少ない可能性がある
346	ヤマガラシ			追加	内田氏要相談			山地の岩場などで普通に見られた
352	トモシリソウ					絶滅危急種 (Vu)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	今回の調査において確認することは出来なかった。個体数は少ない可能性がある

内田 リストNo	種名	浅沼氏	浅沼氏_備考	佐藤氏	佐藤氏_備考	RDB(北海道)	RL(環境省)	コメント
353	エゾイヌナズナ(シロバナノイヌナズナ)			追加	内田氏要相談			海岸から山地の崖地で見られ、個体数は少なくはない
354	エゾスズシロ			追加	内田氏要相談			今回の調査において確認することは出来なかった。個体数は少ない可能性がある
355	ハマタイセイ			追加		絶滅危惧種(En)	絶滅危惧 I A類(CR)	今回の調査において確認することは出来なかった。個体数は少ない可能性がある
365	ムラサキベンケイソウ						絶滅危惧 II 類(VU)	今回の調査で確認出来たが個体数は多くない
367	コモチレンゲ						絶滅危惧 II 類(VU)	海岸から山地の崖地で見られた、個体数は多くない
377	ノリウツギ			追加				低地の草原から山林にかけて普通に見られた
382	トカチスグリ						絶滅危惧 II 類(VU)	海岸周辺の崩壊地等に見られた。個体数は多くない
386	フキユキノシタ			追加				河川沿いの崖地などで普通に見られた
395	チシマザクラ			追加				山地で普通に見られた
397	クロバナロウゲ			追加				湖沼の岸など湿地で見られた、個体数は少なくはない、エゾシカに拠るとされる食痕が多い

内田 リストNo	種名	浅沼氏	浅沼氏_備考	佐藤氏	佐藤氏_備考	RDB(北海道)	RL(環境省)	コメント
399	エゾノシモツケソウ			追加				山地の湿地などで見られた、個体数は少なくはない
401	シロバナノヘビイチゴ(エゾクサイチゴ)			追加				海岸から山地で普通に見られた
409	エゾツルキンバイ			追加	海岸の塩湿地に生息するため。			知床半島では塩湿地が少なく、ウトロ周辺の海岸では50年以上前に塩湿地生の植生が記録されて以降、塩湿地が消滅したと考えられていたが、今回ウトロ周辺で小さな塩湿地を発見し、本種も確認できた
414	ミヤマキンバイ			追加	内田氏要相談			今回の調査において確認することは出来なかった。個体数は少ない可能性がある
416	メアカンキンバイ						絶滅危惧Ⅱ類(VU)	風衝地で普通に見られたが産地は限られる
417	ヒロハノカワラサイコ						絶滅危惧Ⅱ類(VU)	今回の調査で確認する事はできたが、個体数は少ない可能性がある
435	タカネナナカマド			追加	タカネナナカマド(ミヤマナナカマドを含む)にしては？			ハイマツ袖で普通に見られた、個体数は少なくはないが産地は限られる
438	エゾシモツケ				内田氏リスト_種名を採用		絶滅危惧Ⅱ類(VU)	山地の岩場に点在し産地は限定される
443	エゾモメンヅル(チシマモメンヅル)			追加		絶滅危惧種(En)	絶滅危惧ⅠA類(CR)	海岸の礫地に見られたが、個体数は少ない
445	カラフトゲンゲ(チシマゲンゲを含む)			追加		希少種(R)	絶滅危惧ⅠA類(CR)	今回の調査では確認することが出来なかった。個体数はかなり少ない可能性がある

内田 リストNo	種名	浅沼氏	浅沼氏_備考	佐藤氏	佐藤氏_備考	RDB(北海道)	RL(環境省)	コメント
485	ツリフネソウ			追加	内田氏要相談			知床半島の維管束植物フロラから除外を検討したが、標本調査が不十分なため除外はしていない(平成23年度知床世界自然遺産地域植物相調査業務)(要調査)
494	ミツバウツギ			追加	内田氏要相談			個体数は少なく近年減少している可能性がある
503	エゾノタチツボスミレ	追加	個体数が少ない。					知床半島基部や中央部の低地では普通に見られたが国立公園内では記録がなく存在しない可能性もある。
504	キバナノコマノツメ	追加	個体数が少ない。	追加				山地に見られたが、個体数は多くはない
508	チシマウスバスミレ(ケウスバスミレ)					希少種(R)	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	山地の湖沼周辺の湿地に見られ、個体数は少ない
509	シレットコスミレ	追加	個体数が少ない。	追加		希少種(R)		個体数は少なくはないが産地は限定される。今回、エゾシカの食痕は確認されなかった
510	オオバタチツボスミレ	追加	個体数が少ない。					低地から山地の湿地で普通に見られ、個体数は少なくはないが産地は限定される
512	タカネタチツボスミレ	追加	個体数が少ない。	追加				稜線上の雪田周辺に見られ、非常に少ない、これまでに400個体程度が確認できている
514	シロスミレ			追加				海岸から草原で普通に見られたが国立公園内では産地が限定される可能性がある
515	タニマスミレ	追加	個体数が少ない。	追加		絶滅危惧種(Cr)	絶滅危惧ⅠB類(EN)	今回の調査で確認することは出来たが産地は限定され個体数は少ない



内田 リストNo	種名	浅沼氏	浅沼氏_備考	佐藤氏	佐藤氏_備考	RDB(北海道)	RL(環境省)	コメント
516	アイヌタチツボスミレ	追加	個体数が少ない。	追加				山地の日当たりの良い岩場などで普通に見られた
518	エゾアオイスミレ(マルバケスミレ)			追加				今回の調査において知床岬以外でも確認することが出来たが個体数は少なく産地も限定される
526	アシボソアカバナ			追加	高山に生息する種のため			雪田周辺で見られたが、個体数は多くはない
530	シロウマアカバナ			追加	高山に生息する種のため	希少種 (R)		同定が困難で実態が掴めていない(要調査)知床半島の維管束植物フロラから除外を検討したが、野外調査が不十分のため除外はしていない(平成23年度知床世界自然遺産地域植物相調査業務)
531	エゾアカバナ			追加	内田氏要相談			ダケカンバ・ミズナラ林内などで普通に見られた
532	ホソバアカバナ			追加				山地の湿地等に見られ、個体数は少なくはないが産地は限定される。エゾシカと思われる食痕が見られた所もある
536	タチモ	追加	特に個体数がすくない。			希少種 (R)		一部の湖岸でのみ確認できている、個体数は少ない「羅臼湖は日本付近では北東端の個体群である可能性があり、貴重である」(高橋・岩崎,2007)
551	ホタルサイコ			追加				海岸から山地の岩場で普通に見られた
552	コガネサイコ			追加				ホタルサイコより小花柄の長さが短いことで区別される変種。海岸の岩場で見られたが個体数は多くない
557	カラフトニンジン			追加	内田氏要相談			羅臼側では少ないが斜里側の海岸では普通に見られた

内田 リストNo	種名	浅沼氏	浅沼氏_備考	佐藤氏	佐藤氏_備考	RDB(北海道)	RL(環境省)	コメント
560	ハマボウフウ			追加				海岸で見られたが、個体数は少ない
579	チシマツガザクラ						絶滅危惧Ⅱ類(VU)	稜線上の風衝地に散在する、分布は風衝地の一部に限定され、個体数は多くはない
593	コエゾツガザクラ			追加				アオノツガザクラとエゾノツガザクラの雑種。両母種よりは少ない
612	カラフトイチヤクソウ	追加	個体数が少ない。	追加		希少種(R)	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	稜線上で見られたが、個体数は少ない
620	ユキワリコザクラ				内田氏リスト_種名を採用	絶滅危急種(Vu)		海岸及び内陸部の崖地で見られ、個体数は少なくはない
621	レブンコザクラ			追加		希少種(R)	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	エゾシカの不嗜好性種で、知床岬の海岸風衝地では多数確認している(シカによって増加？今後シカが減ることによって個体数が減少する可能性もある)。半島内での産地は限定している
639	ホソバツルリンドウ	追加	個体数が少ない。	追加			絶滅危惧Ⅱ類(VU)	針広混交林内で見られたが、個体数は少ない
640	イワイチョウ			追加				湖沼の岸などで見られたが、個体数は多くはない。また、産地も限定される
642	バシクルモン			追加		絶滅危急種(Vu)	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	産地が限定される
644	オオマルバノホロシ			追加				ウトロ(館脇 1954)において記録されているがその後記録がない。現在は国立公園内に無い可能性もある

内田 リストNo	種名	浅沼氏	浅沼氏_備考	佐藤氏	佐藤氏_備考	RDB(北海道)	RL(環境省)	コメント
670	ムシャリンドウ					絶滅危急種(Vu)	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	今回の調査において確認することは出来なかった。個体数は少ない可能性があり、また大きく減少した可能性もある(館脇1954)
681	ヤマタツナミソウ			追加				今回確認することは出来なかった。個体数は少ない可能性がある
685	テイネニガクサ			追加		希少種(R)		知床半島の維管束植物フロラから除外を検討したが、野外調査が不十分のため除外はしていない(平成23年度知床世界自然遺産地域植物相調査業務)(要調査)
695	ヨツバシオガマ			追加				荒沢(1984)に記録はあるが、知床半島及び国立公園内においてその他の記録はない。
696	シオガマガク			追加				高山から低地まで幅広く分布し普通に見られた
697	ネムロシオガマ					希少種(R)	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	海岸付近の岩場で見られたが個体数は多くない
706	テングクワガタ			追加				今回の調査において確認することは出来なかった。個体数は少ない可能性がある
707	エゾヒメクワガタ				内田氏リスト_種名を採用		絶滅危惧Ⅱ類(VU)	ダケカンバ林から高山帯で普通に見られた
709	ハマウツボ					希少種(R)	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	今回の調査において確認することは出来なかった。国立公園内に存在しない可能性もある
710	キヨスミウツボ	追加	個体数が少ない。			希少種(R)		針広混交林内で見られた、個体数は少ないが、これまでの記録のように非常に少ないという程ではなく散見される

内田 リストNo	種名	浅沼氏	浅沼氏_備考	佐藤氏	佐藤氏_備考	RDB(北海道)	RL(環境省)	コメント
716	タヌキモ	追加	特に個体数が少ない。			希少種 (R)		一部湖沼に見られたが、個体数は少ない
724	エゾヒョウタンボク			追加			絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	今回の調査において確認することは出来なかった。個体数は少ない可能性がある
726	チシマヒョウタンボク			追加			絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	今回の調査で確認することはできたが、個体数は少なく、近年、減少している可能性がある
727	ネムロブシダマ						絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	今回の調査で確認することはできたが、個体数は少なく、近年、減少している可能性がある
728	ベニバナヒョウタンボク	追加	シカの食害が多い。				絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	ダケカンバ・ミズナラ林で見られたが、個体数は多くない、エゾシカと思われる食痕が認められる
729	エゾニフトコ			追加				個体数が特に少ない種ではないが、シカの集中する場所では減少している。
737	チシマキンレイカ(タカネオミナエシ)			追加				遠音別岳(Sato1984)で記録されているが国立公園内においては記録がなく今回も確認できなかった。
739	カノコソウ	追加	特に個体数が少ない。	追加				海岸から山地の岩礫地に見られ、個体数は多くはない。ルシヤ地区では確認することが出来なかった。
747	イワヨモギ						絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	海岸付近の岩場で普通見られた
753	シコタンヨモギ			追加			絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	海岸の風衝地などで見られた、個体数は多くない

内田 リストNo	種名	浅沼氏	浅沼氏_備考	佐藤氏	佐藤氏_備考	RDB(北海道)	RL(環境省)	コメント
755	エゾノユキヨモギ			追加	エゾノユキヨモギ			海岸の岩礫地に見られた、個体数は多くない
810	エゾオグルマ	追加	個体数が少ない。					海岸に広く優占しており、個体数は多い
822	ホロムイソウ			追加				山地の湿地に普通に見られたが産地は限定される
823	ホソバナシバナ	追加	個体数が少ない。	追加			絶滅危惧Ⅱ類(VU)	海岸から山地の湿地に数カ所見られたが、個体数は多くない、ただ、比較的個体数が多い産地もある
826	スガモ			追加	内田氏要相談			海岸の岩礁に多く見られた
827	オオアマモ			追加	内田氏要相談		絶滅危惧Ⅱ類(VU)	海中の調査はまだ十分行っていないため今後調査が必要である
828	スゲアマモ			追加	内田氏要相談			海中の調査はまだ十分行っていないため今後調査が必要である
829	アマモ			追加	内田氏要相談			海中の調査はまだ十分行っていないため今後調査が必要である
830	コアマモ			追加	内田氏要相談			知床半島の維管束植物フロラから除外を検討したが、標本調査が不十分のため除外はしていない(平成23年度知床世界自然遺産地域植物相調査業務)海中の調査はまだ十分行っていないため今後調査が必要である
832	ヒメエゾネギ			追加				エゾシカの不嗜好性種であり、シカの採食圧の高い風衝地では多く見られた(今後シカの個体数の動向によっては変わる可能性がある)

内田 リストNo	種名	浅沼氏	浅沼氏_備考	佐藤氏	佐藤氏_備考	RDB(北海道)	RL(環境省)	コメント
833	ミヤマラッキョウ	追加	シカの食害が多い。					海岸から山地の崖地に分布しているが、 個体数は少なくはない
838	スズラン			追加				海岸から山地の草原や林内で見られた が、個体数は少なくはない。国立公園内での 産地は限定される
842	キバナノアマナ	追加	個体数は少なくはない。					海岸付近に広く分布しており、個体数は多い
843	エゾヒメアマナ	そのまま	特に個体数が少ない。			希少種 (R)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	山地の林内では少ないが、海岸付近では 個体数が特に少ないとは言えない
845	ゼンテイカ (エゾゼンテイカ、エゾカンゾウ、ニッコウ キスゲ)	追加	シカの食害が多い。		ゼンテイカ(エゾゼンテイカ、エ ゾカンゾウ)にしては？			海岸から高山帯まで普通に見られた、高 山帯以外ではエゾシカの食痕が多く、開花 まで至らない個体が多い
847	タチギボウシ	追加	シカの食害が多い。					低地から山地の湿地や草原に普通に見ら れたが、エゾシカの食痕が多く、開花まで 至らない個体が多い
852	ヒメマイヅルソウ	追加	特に個体数が少ない。					ダケカンバ林やハイマツ林下に見られた が、個体数は多くない
865	シラオイエンレイソウ						絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	オオバナノエンレイソウとミヤマエンレイ ソウの自然交配種ではあるが個体数は多く ない
871	ミヤママイ			追加				雪田の底で普通に見られたが産地は限定 される
874	エゾホソイ			追加				山地の湿地で普通に見られたが産地は限 定される

内田 リストNo	種名	浅沼氏	浅沼氏_備考	佐藤氏	佐藤氏_備考	RDB(北海道)	RL(環境省)	コメント
875	ドロイ			追加				塩湿地等海浜性砂地で見られたが、個体数は多くない可能性がある
876	ハマイ			追加				今回の調査では確認できなかった。個体数は多くない可能性がある
877	ミヤマホソコウガイゼキショウ			追加		希少種 (R)		個体数は少なくはないが産地はある程度限定される
879	エゾノミクリゼキショウ			追加		希少種 (R)	絶滅危惧 I B類 (EN)	今回の調査では確認できなかった。個体数は多くない可能性がある
880	セキショウイ						絶滅危惧 II 類 (VU)	今回の調査で確認できたが、個体数は多くない可能性がある
886	チシマスズメノヒエ			追加	内田氏要相談			知床半島で記録があるとされるが実態はつかめていない。
891	クシロホシクサ	追加	特に個体数が少ない。			希少種 (R)	絶滅危惧 II 類 (VU)	カラフトホシクサの別名 羅臼湖においてカラフトホシクサとは別の場所で発見された(高橋・岩崎,2007)が、クシロホシクサはカラフトホシクサのシノニムとされる
892	カラフトホシクサ	追加	特に個体数が少ない。			希少種 (R)	絶滅危惧 II 類 (VU)	知床では山地の湿地で見られたが、個体数は少ない
911	チシマガリヤス			追加				山地の湿地に見られたが、個体数は多くはない
916	ヒロハノコメスキ			追加				今回の調査において確認することは出来なかった。個体数は少ない可能性がある

内田 リストNo	種名	浅沼氏	浅沼氏_備考	佐藤氏	佐藤氏_備考	RDB(北海道)	RL(環境省)	コメント
917	コメススキ			追加				山地の風衝地で見られたが産地は限定される
919	ハمامギ			追加				海岸で見られたが産地は多くない。
920	エゾムギ			追加			絶滅危惧 I A類 (CR)	今回の調査において確認することは出来なかった。個体数は少ない可能性がある
924	ミヤマドジョウツナギ	追加	個体数が少ない。					高山の雪田周辺などで普通に見られ、個体数も特に少なくはないが産地が限定される
929	ミノボロ			追加				今回の調査で確認できなかったが、個体数は少なく近年、減少している可能性がある。
942	カラフトイチゴツナギ			追加				<i>Poa macrocalyx</i> Trautv. et C.A.Mey. カラフトイチゴツナギ 広義 カラフトイチゴツナギ全体として産地は限られている
	ヒメカラフトイチゴツナギ							カラフトイチゴツナギ <i>Poa macrocalyx</i> Trautv. et C.A.Mey. 広義 の変種とされていたが、ヒメカラフトイチゴツナギ <i>Poa sachalinensis</i> (Koidz.) Honda の見解もあるザラバナソモモ、ホソバナソモモを追加リストに加えるのであれば本種も検討すべき
944	ザラバナソモモ			追加				カラフトイチゴツナギの変種。ザラバナソモモ <i>Poa macrocalyx</i> Trautv. & Mey. var. <i>scabriflora</i> (Hack.) Ohwi
945	ホソバナソモモ			追加		希少種 (R)		カラフトイチゴツナギの変種。ホソバナソモモ <i>Poa macrocalyx</i> Trautv. & Mey. var. <i>tatewakiana</i> (Ohwi) Ohwi 海岸で見られ、個体数は少なくはない
955	シコタンザサ			追加				知床半島の維管束植物フロラから除外を検討したが、野外調査が不十分なため除外はしていない(平成23年度知床世界自然遺産地域植物相調査業務)(要調査)



内田 リストNo	種名	浅沼氏	浅沼氏_備考	佐藤氏	佐藤氏_備考	RDB(北海道)	RL(環境省)	コメント
956	フォーリーガヤ	追加	特に個体数が少ない。	追加			絶滅危惧 I A類 (CR)	ダケカンバ・ミズナラ林の岩礫地にあり、 個体数は約700
965	ホソバウキミクリーホソバタマミクリ	追加	特に個体数が少ない。	追加		希少種 (R)	絶滅危惧 II 類 (VU)	生息地における個体数は少なくないが、産 地が限られている。
967	タマミクリ	追加	特に個体数が少ない。					山地の湖沼に点在する、個体数は少ない
971	オハグロスゲ					希少種 (R)	絶滅危惧 I B類 (EN)	知床半島の維管束植物フロラから除外を 検討したが、標本調査が不十分のため除 外はしていない(平成23年度知床世界自 然遺産地域植物相調査業務)(要調査)
972	ショウジョウスゲ	追加	個体数が少ない。					海岸から山地にかけて普通に見られ、本 種が優占する所も多い
974	タルマイスゲ			追加		希少種 (R)	絶滅危惧 II 類 (VU)	今回の調査において確認することは出来 なかった。個体数は少ない可能性がある
977	ハクサンスゲ			追加				山地の湿地に普通に見られた
981	キタノカワズスゲ			追加				山地の湿地に見られ、個体数は多くはな い
992	ハリガネスゲ	追加	シカ食あり。					山地の湿地に見られ、知床での個体数は 少ない
994	ムジナスゲ			追加				湖岸に見られた、個体数は少なくはない

内田 リストNo	種名	浅沼氏	浅沼氏_備考	佐藤氏	佐藤氏_備考	RDB(北海道)	RL(環境省)	コメント
998	ムセンスゲ	追加	個体数が少ない。			希少種 (R)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	知床では山地の湿地で見られたが、個体数は少なく産地は限定されている
1000	ヤラメスゲ			追加				低地から山地の水際で見られた、個体数は少ない
1001	エゾノコウボウムギ			追加				海岸に見られた、砂浜の少ない国立公園内では少ない可能性がある
1010	タカネハリスゲ(ミガエリスゲ)			追加				山地の湿地に見られた、個体数は少ないが産地は限定される
1012	コウボウシバ			追加				海岸で普通に見られたが知床半島としては砂浜の減少により減少している可能性がある
1013	キンスゲ			追加				雪田の底部に普通に見られたが産地は限定される
1014	イトヒキスゲ			追加			絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	今回の調査で確認出来たが個体数は多くない可能性がある。また本種を半島の羅臼側では確認できていない
1017	シュミツスゲ	追加	個体数が少ない。	追加		絶滅危急種(Vu)	絶滅危惧ⅠA類 (CR)	山地の湿地に見られたが、個体数は少ない
1018	リシリスゲ			追加				ダケカンバ林から高山帯にかけて普通に見られた
1019	シコタンスゲ			追加			絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	海岸の崖地などに見られたが少ない

内田 リストNo	種名	浅沼氏	浅沼氏_備考	佐藤氏	佐藤氏_備考	RDB(北海道)	RL(環境省)	コメント
1023	ラウススゲ	追加	個体数が少ない。	追加			絶滅危惧 I B類 (EN)	稜線上の湿地に数箇所点在する、個体数は多くない
1025	ミヤケスゲ	追加	個体数が少ない。	追加		希少種 (R)	絶滅危惧 I B類 (EN)	ダケカンバ林周辺の日当たりの良い岩礫地で普通に見られたが産地が限定されている
1027	ヒロハオゼヌマスゲ	追加	個体数が少ない。	追加				山地の湖岸に見られたが、個体数は少ない
1028	ヌイオスゲ	追加	個体数が少ない。	追加			絶滅危惧 II 類 (VU)	稜線上の風衝地に点在する、個体数は少ない
1030	マツバイ	追加	個体数が少ない。					山地の湿地に普通に見られた
1032	クロヌマハリイ			追加				沼や湿地で普通に見られた
1033	シロミノハリイ	追加	個体数が少ない。	追加		絶滅危急種 (Vu)	絶滅危惧 I B類 (EN)	山地の湿地見に見られた、個体数は少ない
1034	シカクイ	追加	個体数が少ない。					山地の湿地に見られたが、個体数は少ない
1035	サギスゲ	追加	シカの食害あり。					知床では稜線上付近の湿地1箇所でのみ確認、当地での個体数は非常に少ない
1037	ミカツキグサ			追加				山地の湿地で普通に見られたが産地は限定される

内田 リストNo	種名	浅沼氏	浅沼氏_備考	佐藤氏	佐藤氏_備考	RDB(北海道)	RL(環境省)	コメント
1038	ミネハリイ	追加	個体数が少ない。	追加				山地の湿地で見られた、個体数雨は多くはない
1039	タカネクロスゲ			追加			絶滅危惧Ⅱ類(VU)	稜線上の湿地でのみ確認、産地は限定され個体数は少ない
1040	ヒメワタスゲ	追加	個体数が少ない。					知床では稜線上付近の湿地1箇所でのみ確認されており当地での個体数は非常に少ない
1042	キンセイラン	追加	個体数が少ない。	追加		絶滅危惧種(En)	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	針広混交林内に点在、個体数は少ない
1043	サルメンエビネ					絶滅危惧種(En)	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	針広混交林内に点在、個体数は少なくはないが、大きく目立つランで盗掘の懸念もある
1044	ギンラン			追加				針広混交林内で普通に見られたが個体数は多くはない
1045	ササバギンラン	追加	個体数が少ない。	追加				針広混交林からダケカンバ林で見られたが、個体数は多くはない
1046	アオチドリ			追加				知床半島の維管束植物フロラから除外を検討したが、野外調査が不十分なため除外はしていない(平成23年度知床世界自然遺産地域植物相調査業務)(要調査)
1048	コイチヨウラン	追加	個体数が少ない。			絶滅危惧種(En)		針広混交林からダケカンバ林内で普通に見られた
1050	オニノヤガラ			追加				針広混交林からダケカンバ林内で見られた、腐生ランによく見られたことだが、多い年と少ない年があり、多い年では比較的普通に見られたが、少ない年はほとんど見ることはない

内田 リストNo	種名	浅沼氏	浅沼氏_備考	佐藤氏	佐藤氏_備考	RDB(北海道)	RL(環境省)	コメント
1052	ミヤマウズラ	追加	個体数が少ない。					これまでヒメミヤマウズラとされていたものはミヤマウズラであったと思われる、今回、新たな産地でヒメミヤマウズラが確認され、ミヤマウズラとは区別された(未発表)、個体数としてはミヤマウズラよりヒメミヤマウズラのほうが少ない
1055	ミヤマモジズリ			追加				今回の調査において確認することは出来なかった。個体数は少ない可能性がある
1059	ミヤマフタバラン	追加	個体数が少ない。			希少種 (R)		ハイマツ林下などで見られたが個体数は多くない。知床フロラリストにあるタカネフタバラン <i>Listera puberula</i> は標本調査(平成23年度知床世界自然遺産地域植物相調査業務)の結果本種の誤りであった
1060	ホザキイチヨウラン	追加	個体数が少ない。	追加				川沿いや山地の沢沿いに見られたが個体数は多くはない。今回の調査で知床五湖でも確認できた
1061	アリドオシラン			追加		希少種 (R)		針広混交林からダケカンバ林内で普通に見られたが個体数は多くはない
1062	ヒメムヨウラン	追加	個体数が少ない。	追加		絶滅危急種(Vu)	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	針葉樹林内で見られたが個体数は多くない
1063	カイサカネラン	追加	個体数が少ない。	追加			絶滅危惧ⅠA類(CR)	針広混交林内で見られたが、非常に少ない、これまでのところ確認された個体数は最大で68個体
1065	エゾサカネラン	追加	個体数が少ない。			絶滅危機種(Cr)		針広混交林ないで見られたが、少ない
追加種	サカネラン					絶滅危機種(Cr)	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	エゾサカネランの花序や子房に突起状の毛のある型をサカネランとして区別している。リストに反映されていなかったので新たに追加する。個体数は少ない
1068	タカネトンボ			追加			絶滅危惧Ⅱ類(VU)	河川沿いや針広混交林内で比較的普通に見られたが個体数が多いとは言えない

内田 リストNo	種名	浅沼氏	浅沼氏_備考	佐藤氏	佐藤氏_備考	RDB(北海道)	RL(環境省)	コメント
1070	ヒロハトンボソウ			追加			絶滅危惧Ⅱ類(VU)	針広混交林内で見られたが、少ない
1071	エゾチドリ			追加				今回確認することは出来なかった。個体数は少ない可能性がある
1072	キノチドリ			追加	キノチドリ(ミヤマチドリを含む)にしては？			針広混交林で見られたが、個体数は多くない ミヤマチドリとキノチドリは別種
1074	オオヤマサギソウ	追加	個体数が少ない。					針広混交林やダケカンバ・ミズナラ林で普通に見られたが登山道沿いなどでは目立ち、盗掘の可能性もある
1075	ガッツサンチドリ	追加	ガッツサンチドリ(ミヤマチドリ改め)にしては？	追加	内田氏要相談		絶滅危惧ⅠB類(EN)	これまでミヤマチドリとしていたものは、ガッツサンチドリであると確認された(遊川)、ダケカンバ林内に見られ、個体数は少なくはない
1077	トキソウ	追加	個体数が少ない。	追加		絶滅危急種(Vu)		低地から山地の湖沼付近の湿地に点在する、個体数は少ない。知床五湖の開花個体数は その他産地の開花個体数は 株であった
	サワラン							知床新産(浅沼、未発表)知床での個体数は少なく253株であった
1078	ネジバナ			追加				国立公園内では産地は限定され、個体数は多くない可能性がある

合計

217

表の色区分について

- 追加候補種リストから削除することが妥当と思われる種 29
- 今後調査が必要と思われる種 24
- 指定植物への追加が妥当と思われる種 164

別表4.指定植物からの削除候補種リスト(平成25年度版)

内田リスト No	種名	浅沼氏	浅沼氏_備考	佐藤氏	佐藤氏_備考	コメント
226	マルバギシギシ (ジンヨウスイバ)	削除	本当にあるのか？	削除	内田氏要相談	分布しない
227	ヒメイワタデ (チシマヒメイワタデを含む)	削除	本当にあるのか？	削除	内田氏要相談	分布しない
308	ミヤマキンポウゲ(ヤエミヤマキンポウゲを含 む。)			削除		分布しない
319	モミジカラマツ			削除		分布しない
321	シナノキンバイ (エゾキンバイソウ)	削除	分布しないのではないか？	削除		分布しない
412	キンロバイ	削除	分布しないのではないか？	削除		分布しない
439	ホザキシモツケ	削除	外から侵入してきたものではないか？	追加	内田氏要相談	国立公園外では自生している。知床横断道路など 道路脇に自生するが工事で持ち込まれた土砂に 拠る可能性もある
539	エゾゴゼンタチバナ	削除	分布しないのではないか？	追加	内田氏要相談	今回の調査では確認することが出来なかった。国 立公園内においてこれまでに記録がなく自生しな い可能性が高い

内田リスト No	種名	浅沼氏	浅沼氏_備考	佐藤氏	佐藤氏_備考	コメント
569	コメツツジ	削除	分布しないのではないか？	そのまま	内田氏要相談	今回の調査では確認することが出来なかった。国立公園内においてこれまでに記録がなく自生しない可能性が高い
585	ヒメイソツツジ	削除	分布しないのではないか？	そのまま	内田氏要相談	今回の調査では確認することが出来なかった。国立公園内においてこれまでに記録がなく自生しない可能性が高い
594	ナガバツガザクラ	削除	分布しないのではないか？	そのまま	内田氏要相談	今回の調査では確認することが出来なかった。国立公園内においてこれまでに記録がなく自生しない可能性が高い
601	ヒメツルコケモモ			そのまま	内田氏要相談	今回の調査では確認することが出来なかった。国立公園内においてはこれまでに記録がなく自生しない可能性もあるが今後も引き続き調査が必要である
624	コツマトリソウ			削除	ツマトリソウ(コツマトリソウを含む)に統合しては？	統合しない見解もあり、何に拠るのか？
626	クシロワチガイ	削除	本当にあるのか？	そのまま	内田氏要相談	今回の調査では確認することが出来なかった。国立公園内においてこれまでに記録がなく自生しない可能性が高い
629	ミヤマリンドウ			削除		分布しない
634	チシマリンドウ			削除		分布しない
637	タカネセンブリ	削除	分布しないのではないか？	削除		分布しない



内田リスト No	種名	浅沼氏	浅沼氏_備考	佐藤氏	佐藤氏_備考	コメント
660	エゾメシダ			削除		普通に見られる
661	エゾルリソウ			削除		分布しない
664	エゾムラサキ	削除	分布しないのではないか？	削除		知床半島基部にはあるが国立公園内ではこれまでも記録はなく自生しない可能性が高い
715	ムシトリスミレ	削除	分布しないのではないか？	そのまま		今回の調査では確認することが出来なかった。国立公園内においてはこれまでに記録がなく自生しない可能性が高い引き続き調査が必要である
764	コハマギク (チシマコハマギクを含む)			削除		チシマコハマギク <i>Chrysanthemum arcticum</i> subsp. <i>yezoense</i> は標本にて確認されているため削除せず、コハマギク <i>Chrysanthemum yezoense</i> は知床半島の維管束植物フロラリストから一旦除外することが適切である(平成23年度知床世界自然遺産地域植物相調査業務)
	シカギク			そのまま	内田氏要相談	今回の調査で確認することができた。個体数は少なくはない
774	ヒロハムカシヨモギ			削除	エゾムカシヨモギ(ヒロハムカシヨモギを含む)に統合しては？	統合しない見解もあり、何に拠るのか？
973	エゾウスユキソウ (レブンウスユキソウ)	削除	分布しないのではないか？	削除		分布しない
	クルマユリ			そのまま	内田氏要相談	今回の調査で確認することができた。個体数は少なくはない

内田リスト No	種名	浅沼氏	浅沼氏_備考	佐藤氏	佐藤氏_備考	コメント
	ヒメカイウ			そのまま	内田氏要相談	今回の調査では確認することが出来なかった。国立公園内においてはこれまでに記録がなく自生しない可能性が高い。引き続き調査が必要である
1064	サカネラン	そのまま		削除	内田氏要相談	エゾサカネラン、サカネラン共に知床に自生するが個体数は少ない
	アケボノシュスラン			そのまま		今回の調査では確認することが出来なかった。館脇(1954)に記載があるがその後記録はなく、国立公園内では自生しない可能性も含めて検討する必要がある
	ミズチドリ			そのまま	内田氏要相談	今回の調査では確認することが出来なかった。国立公園内においてはこれまでに記録がなく自生しない可能性が高い
1073	ミヤマチドリ	削除	ガッサンチドリ(ミヤマチドリ改め)に統合しては？	削除	キノチドリ(ミヤマチドリを含む)に統合しては？	キノチドリは別に分布している 従来、ミヤマチドリ <i>Platanthera takedae</i> としていたものはガッサンチドリ(遊川)

合計

31

表の色区分について

- 指定植物から削除することが妥当と思われる種
- 指定植物から削除すべきではない種

27

4